

タイトル	北海道における中小企業家同友会の教育(10)
著者	竹田, 正直; TAKEDA, Masanao
引用	開発論集(104): 17-37
発行日	2019-09-30

北海道における中小企業家同友会の教育(10)

竹 田 正 直*

はじめに

1969(昭和44)年11月17日に東京商工会議所ホールにて、中小企業家同友会全国協議会(略称、中同協)の設立総会が行われ、東京、大阪、愛知、福岡、神奈川の5同友会と、北海道、京都の2準備会より78名が参加した。加入会員は、5同友会合わせて640名であった。役員が選出され、初代「議長」は、田中秀一氏(東京同友会)であった。中同協は、今年、2019(令和元)年11月17日に創立50周年を迎える。

北海道中小企業家同友会(略称、北海道同友会)は、中同協の5日後、1969年11月22日に札幌第一ホテルにおいて、結成総会を25名(他に委任状9名)で行ったので、やはり、今年11月22日に創立50周年を迎える。中同協設立総会に、北海道と同じく準備会として参加した京都は、翌年、1970年8月26日に京都中小企業家同友会を設立した。

その後、中同協は、47都道府県すべてに同友会が設立され、設立時の640名会員をいまや50周年までに会員5万名を目指すまでになっているし、北海道同友会は、2019年8月1日現在で5,937名となり、11月22日の50周年までに6,000名会員を目指して努力している。永年、北海道同友会の会員数は、全国一を誇っている。

50周年記念事業について、中同協も北海道同友会も数年前から取り組んできた。

中同協は、4年前の2015年6月3日の第4回幹事会で『中同協50年史』刊行編さん委員会を発足させ、4年をかけて、中同協50年史編さん委員会編『中同協50年史——歴史と理念に学び未来をひらく——』(中小企業家同友会全国協議会、2019年7月4日刊、印刷(株)アイワード、A4判、305頁、カラー印刷)を出版した。

広浜泰久中同協会長(中同協50年史編さん委員会委員長、(株)ヒロハマ会長)は、「中同協50年史刊行にあたって」の中で次のように述べている。「先輩方が本当に大切にしてきた『自助努力』をはじめとする『自主・民主・連帯の精神』から『自分も周りも決して貶(おとし)めない』を日々自戒しているところです。これだけのものをいただいている私たちだからこそ『素晴らしい企業をつくる』『それぞれの同友会運動をさらに発展させる』『地域・日本を活性化する』先頭に立つべき使命があると思うのです。」ここには、50年の遺産と未来への課題をしっかりと提起している。そしてこの50年史が、今後の同友会運動を考え議論する『教科書』

* (たけだ まさなお) 北海学園大学開発研究所特別研究員、(北海道大学名誉教授)

であるとしている。第1部中同協前史，第2部中同協本史，付録として資料や年表，役員名簿などの内容はまさに『教科書』である。^(注1)

「あとがき」を書いているのは，国吉昌晴中同協顧問（元中同協副会長・専務幹事・事務局長，元北海道同友会事務局長）で編さん委員6人の一人として専任の努力を編さんに注入したと思われる。編さん委員会がこの4年間に27回行われたことや参考にした資料や同友会史，協力者への感謝を述べている。「先人の方たちが『中小企業こそ日本経済の主人公である』との高い志と使命感を堅持し，同友会理念を生み出し，実践のなかで今日を築き上げてきた足跡を記すものです。現在から，未来へ生き抜く私たちは，同友会運動の先進性と普遍性に学びながら，その歴史的資産を存分に生かし，さらに成長，前進していかなければなりません。」^(注2)

共に育つ社員教育については，第四章「同友会理念の形成と運動の基礎づくり」，第三節「人間尊重の精神による同友会運動の発展」の中で，創立以来の労使関係に関する統一見解が議論され，1972年6月22～23日，札幌で開催された中同協第4回定時総会でも熱心に議論され，1975年1月の中同協第5回幹事会で「労使見解」を採択し発表した。第1に，経営者は経営の維持，発展に全力をつくす。第2は，経営者は英知を結集して長期計画を作成し，明確な指針をつくる。第3に，「社員をもっとも信頼できるパートナーと考え，高い次元での団結をめざし共に育ちあう教育（共に育つ）を重視していること。」第4に，「経営を安定的に発展させるためには，外部経済環境の改善にも労使が力をあわせていこうということです。」社内に正しい労使の信頼関係をつくるには「人間尊重の精神」を「学び」「学びあう」ことから「共に育つ」ことが大切となる。^(注3)

中同協の第15回定時総会は，1983年7月6～7日，北海道で開催されたが，そこで採択されたのは「総会宣言（教育宣言）」である。「教育宣言」が北海道総会で採択されたことは，共同求人活動，新入社員教育，同友会大学，経営者大学と人材養成・教育活動を活動の中心にすえてきた北海道同友会の活動が中同協全体にも普及し始めたといえる。

「激動の時代に対応できる保障は“人材”にあると考え，“共同求人”や“社員教育”に力を入れて取り組んできました。（中略）日本経済と国民生活の真の担い手は中小企業であり，その経営基盤は国民生活と地域の中にあります。（中略）今こそ，地域の人々の暮らしを見つめ家庭，学校，社会における教育と結合して，“人間が人間として息づく”環境を共に作り上げていかなければなりません。」^(注4)

北海道同友会は，社会的経済的に厳しい地域にあって，とくに，2018年は，台風や震災の自然災害と人為的災害ともいえる全道完全停電にあいながらも，中同協のなかでいくつかの発展指標について全国一を実現しているのは，経営者も社員も共に学び，共に育ち合う共学・共育の理念と実践が息づいているからにはほかならない。北海道同友会の共学・共育の多様な活動のなかで同友会大学はその中軸を担っていると言っても過言ではない。この同友会大学の歴史的な分析とともに，筆者が，同友会創立前から提起している「共育」について検討したい。^(注5)

本号（『開発論集』第104号）では、同友会大学第15期と第16期の分析によって「共育」概念の構造仮説を検証したい。

第1章 北海道中小企業家同友会第15期同友会大学

(1) 第15期同友会大学の日程と講義概要

第15期同友会大学は、1988年1月11日(月)の開校式から、講義の最終が4月22日(金)、卒業式は同年5月10日(火)までである。会場は北海道同友会事務局の第一ビルである。^(注6)

講義カリキュラム（第15期）の単元構成、単元Ⅰ、経済と中小企業、単元Ⅱ、北海道論、単元Ⅲ、経営と法律、単元Ⅳ、経営分析、単元Ⅴ、科学技術論、単元Ⅵ、人間と教育、そして、まとめとしての総括講義、の構成は第14期と同様である。

各単元の講義のテーマ、担当、順序などは、若干、変更がある。単元Ⅰ、「経済と中小企業」は、第1講義は、第14期の森杲北大経済学部教授の「どうして経済学を学ぶのか～人間の歴史と経済学の発生～」が、第15期は、担当は森教授であるが、テーマが「経済学入門～経済学の歴史と人間社会～」になっている。主テーマが少し硬くなり、サブテーマは、より経済学に特化している。第2講義は、佐々木隆生北大助教授「戦後世界経済と現在の課題」で、若干の変更である。第3講義の富森虔児北大教授「戦後日本経済と中小企業」は、第14期の日本経済全般から中小企業に絞っている。第4講義の真野脩北大教授と第5講義三好宏一道教育大教授の講義テーマは、第14期と全く変わっていない。

単元Ⅱ、「北海道論」は、山田定市北大教授が、前期の第3講義「北海道経済の歴史と可能性」から、第15期は第1講義「北海道経済の歴史と新しい可能性」に変わっているが、本質的な変化ではない。第2講義は、第14期で単元Ⅵ「人間と教育」に入っていた田中丁日本民族学会会員「北方少数民族の生き方で考える～もうひとつの近代史～」で、第13期での講義を本テーマとサブテーマを入れ替えた内容である。同友会大学が早くから多民族共生の視点での講義をカリキュラムに含めていたことは特筆に値する。第3講義の小笠原克藤女子大学教授「北海道の風土と文学」は、前期には第4講義であったものと同じで、第15期の第4講義の永井秀夫北大教授との、どちらかの日程上の問題であろう。永井教授のテーマは、前期とは、本テーマとサブテーマを入れ替えた内容である。

単元Ⅲ、「経営と法律」の第1講義は、郷路征記弁護士「日本国憲法と私たちの課題」で、第14期で「日本国憲法」のあとに「の真髄」とあったものを若干変えているが内容上の変化はあまりないであろう。第2講義は、前期の中村仁弁護士の「独禁法と中小企業関連法」に代わって、伊藤誠一弁護士の「労働基準法の改正と中小企業」が入っている。「労使見解」を発表し、その「労使見解」を重要文献として絶えず学んでいる同友会会員にとって労働基準法の問題は大切なテーマである。第3、4講義は、向井清利弁護士の「債権の管理と回収(1)、(2)」で、テーマは変わっていない。順番の変化のみである。

資料 1 北海道中小企業家同友会「同友会大学」講義カリキュラム（第15期）

日 程	講 義 テ ー マ	講 師
開 校 式		
'88 1月11日(月)	◎学長あいさつ、教育委員会の紹介、ガイダンス ◎班編成の発表、性格・職業興味検査	
単元Ⅰ 経 済 と 中 小 企 業		
1月14日(休)	◎経済学入門 ～経済学の歴史と人間社会～	北海道大学 教 授 森 杲氏
1月18日(月)	◎戦後世界経済と現在の課題	北海道大学 助教授 佐々木隆生氏
1月22日(金)	◎戦後日本経済と中小企業	北海道大学 教 授 ^(ママ) 富森 虔児氏
1月27日(休)	◎経営環境の変化と中小企業経営	北海道大学 教 授 眞野 脩氏
1月29日(金)	◎現代情勢をつかむポイント ～グループ研究(1)～	北海道教育大学 教 授 三好 宏一氏
単元Ⅱ 北 海 道 論		
2月1日(月)	◎北海道経済の歴史と新しい可能性	北海道大学 教 授 山田 定市氏
2月5日(金)	◎北方少数民族の生き方で考える ～もうひとつの北海道史～	日本民族学会 会 員 田中 了氏
2月8日(月)	◎北海道の風土と文学	藤女子大学 教 授 小笠原 克氏
2月12日(金)	◎北海道の歴史をつくった人々 ～北海道の近代史～	北海道大学 教 授 永井 秀夫氏
単元Ⅲ 経 営 と 法 律		
2月15日(月)	◎日本国憲法と私たちの課題	弁護士 郷路 征記氏
2月19日(金)	◎労働基準法の改正と中小企業	弁護士 伊藤 誠一氏
2月22日(月)	◎債権の管理と回収(1)	弁護士 向井 清利氏
2月26日(金)	◎債権の管理と回収(2)	弁護士 向井 清利氏
単元Ⅳ 経 営 分 析		
2月29日(月)	◎経営分析のABC	税理士 芥川満砂子氏
3月4日(金)	◎経営分析のすすめ方	税理士 上村 昭紀氏

講義時間：18：00～21：00

日 程	講 義 テ ー マ	講 師
3月7日(月)	◎危ない企業の見分け方	(株)帝国データバンク 札幌支店長 大宮 辰男氏
3月11日(金)	◎経営分析の事例研究 ～グループ研究(2)～	税理士 池脇 昭二氏
単元Ⅴ 科 学 技 術 論		
3月14日(月)	◎科学と人間 ～自然科学の発展と人間生活～	北海道大学 教 授 田中 一氏
3月18日(金)	◎技術革新と中小企業	北海道大学 助教授 吉田 文和氏
3月22日(月)	◎コンピュータと情報化時代	北海道大学 教 授 青木 由直氏
3月25日(金)	◎科学技術の発展と人類の課題 ～グループ研究(3)～	北海道大学 助教授 赤石 義紀氏
3月28日(月)	◎超伝導利用技術の展望 ～超伝導は未来の生活をどう変えるか～	北海道大学 助教授 渡辺 昂氏
単元Ⅵ 人 間 と 教 育		
4月1日(金)	◎部下をどう教育するか(1) 現代人の社会心理と組織の活かし方	北海学園大学 教 授 後藤 啓一氏
4月4日(月)	◎教育とは何か ～社会と教育の歴史～	北海道大学 教 授 竹田 正直氏
4月8日(金)	◎幹部に求められる現代のマナー	北海道同友会 事務局長 西谷 博明氏
4月11日(月)	◎人間と話し言葉 ～コミュニケーションをより豊かにするために～	(社)北海道邦楽邦舞協会事務局長 (元 HBC アナウンスアカデミー所長) 平沢 秀和氏
4月15日(金)	◎部下をどう教育するか(2) ～目標必達の社風をつくりあげるために～	(株)共同印刷 社 長 木野口 功氏
4月18日(月)	◎“知恵”ある人間に育つために ^(ママ)	札幌学院大学 教 授 方波見雅夫氏
総 括 講 義		
4月22日(金)	◎中小企業の未来と私たちの課題 ～同友会大学で何を学んだか(グループ討論)～	北海道同友会 専務理事 大久保尚孝氏

卒業式 5月10日(火) 18：00～21：00

出典：西谷博明事務局編責任『同友会大学第15期生記録集，“希望”』，北海道中小企業家同友会社員教育委員会発行，1988年7月，8～9頁。

単元Ⅳ、「経営分析」は、新たに、第1講義に芥川満砂子税理士の「経営分析のABC」が入り、新風を吹き込んでいる。ただし、このテーマ自体は、前期に上村昭紀税理士が担当していたもので、上村税理士は、前期に池脇昭二税理士が担当していた「経営分析のすすめ方」を担当している。大宮辰男(株)帝国データバンク札幌支店長の「危ない企業の見分け方」と第4講義の池脇昭二税理士「経営分析の事例研究～グループ討議～」は、第14期と同様である。

単元Ⅴ、「科学技術論」は、第1講義、田中一北大教授、第2講義、吉田文和北大助教授、第3講義、青木由直北大教授、第4講義、赤石義紀北大助教授までは、順番の入れ替えのみでテーマは変わっていない。第5講義が、第14期の西村弘行北大助手の「バイオテクノロジーと北海道の未来」に代わって第15期では、渡辺昂北大助教授の「超伝導利用技術の展望～超伝導は未来の生活をどう変えるか～」があらたに入った。

単元Ⅵ、「人間と教育」は、第1講義の後藤啓一北海学園大教授、第2講義、竹田正直北大教授、第3講義、西谷博明北海道同友会事務局長、第5講義、木野口功(株)共同印刷社長、第6講義、方波見雅夫札幌学院大教授は、順番の変化はあるが、テーマは第14期と同じある。第4講義の平沢秀和(社)北海道邦楽邦舞協会事務局長(元HBCアナウンスアカデミー所長)「人間と話し言葉～コミュニケーションをより豊かにするために～」が入ったことが新しい。

総括講義の北海道同友会大久保尚孝専務理事の講義テーマは第14期同様である。(注7)

(2) 第15期同友会大学の学びの背景と受講生・卒業生の特徴

第15期の同友会大学受講生62名も卒業生56名も、この数は歴代第1位で、画期的なものとなった。(注8)

受講生増加の背景には、翌年に設立20周年を迎えるこの年、1988年2月8日現在、北海道同友会会員数が、4,975社(札幌1,895社、小樽466社、南空知127社、帯広472社、釧路232社、根室95社、中標津60社、北見276社、旭川549社、北空知62社、函館336社、苫小牧218社、西胆振143社、静内44社)まで拡大したことにある。また、1988年4月26日(火)午後1～6時、北海道厚生年金会館(現ニトリホール)で開催の北海道同友会第20回定時総会まで、5,000名を達成し、同年7月14日、午前10時から京王プラザホテル札幌に、全国から1,200名の会員を迎えての中同協第20回定時総会を成功させた北海道同友会の飛躍的発展がある。(注9)

また、この年、中同協の教育にとっても画期的な出版がなされた。中同協が1988年3月25日に、『共に育つ～教育のあるべき姿を求めて』(後に『共に育つ PART I』)が刊行されて会内外に広く普及した。大田堯日本教育学会会長をはじめ山田正敏氏、藤岡貞彦氏、二宮厚美氏、秋葉英則氏という著名な教育学者などが執筆し、最後に大田堯会長と大久保尚孝中同協社員教育委員長との対談もある。「この書は企業内教育にとどまらず、家庭・学校・社会すべてに貫かれるべき、人間と教育のありかたを示しています。全社員の必読書として購入した企業をはじめ、同友会で広く普及されるとともに、会外でも反響をよびました。教育学者からは『現

資料 2

決意表明

情勢は刻一刻と変化し、その対応も昨日と今日では違ってきます。まさに激動の時代です。

私達は、今こそ各会社の指導的立場にあることをあらためて自覚し、自分自身を見つめ直すことが大切だと思います。

そのための絶好の機会が同友会大学だと理解しています。この大学でグローバルな視点から社会をみつめ、今、何をすべきかをしっかりつかみたいと決意しております。

お互いに励ましあい、全員が卒業できるよう努力することを、ここに誓いあいたいと思います。

1988年1月11日

同友会大学第15期生代表
タナカ化学株式会社
大日向 達也

出典：西谷博明事務局長編集責任『同友会大学第15期生記録集，“希望”』、北海道中小企業家同友会社員教育委員会発行、1988年7月、6頁。

代における最高の教育者たる中小企業経営者』との期待が寄せられました。そこには教育なしには企業の存続はあり得ない、職場での教育にこそ人間の全面発達を促す教育の本流がある、という二つの意味が込められています。』^(注10)

北海道同友会は、この年の年頭にあたり「'88年パネルディスカッション“今年の経営課題は何か”」を行い、北海道拓殖銀行石黒直文常務、北海道銀行土倉克己常務、北洋相互銀行水戸重光常務、北海道相互銀行川西徹常務をパネラーに、北海道同友会大久保尚孝専務理事が司会を担当した。全般的な景気展望は、石黒常務のいう、北海道でも日本でも「15年ぶりにいい」という数字がたくさんあるが、為替相場の大暴落、株価暴落、金利の暴騰を考慮しておくべき、に代表される。課題としては、種々あるが、共通して、「主体的な力量が求められる」「しっかりした企業内の手づくりの教育が大切」、「人の教育のために、金と時間と心を惜しんではなりません」、「自己研鑽、相互研鑽」などが強調された。^(注11)

これらを背景に第15期同友会大学を受講した歴代最大の62名の受講生を代表して、大日向達也タナカ化学(株)第一事業部長が「決意表明」を行った。

「情勢は刻一刻と変化し、その対応も昨日と今日では違ってきます。まさに激動の時代です。私達は、今こそ、各会社の指導的立場にあることを自覚し、自分自身を見つめなおすことが大切だと思います。そのための絶好の機会が同友会大学だと理解しています。この大学でグローバルな視点から社会をみつめ、今、何をすべきかをしっかりつかみたいと決意しております。」ここには、「激動の時代」へ対処する幹部の決意が示されている。卒業生56名のうち、取締役が10名で代表取締役3人もふくまれている。そのほかに、部長、次長、店長などが13名おり、約4割が企業のトップグループである。^(注12)

ところで、同友会大学の卒業条件は、80%以上の出席率と単元Ⅰ～Ⅴの5本のレポートと最後の卒業論文の平均点が50点以上であるが、これをクリアした第15期生の卒業率は、62名中56名の卒業で、90.3%、第15期までの第3位、皆勤率は、56名の卒業生中33名、58.9%で第7位、レポートと卒業論文の平均点は、60.9点でなんと0.1点違いの第14位とのことである。受講態度は講師の評価で「極めて熱心」とのこと。^(注13)

(3) 第15期同友会大学の卒業生への祝辞と励まし

1988年5月10日(火)午後6時からの北海道同友会会議室での卒業式で、西村信同友会大学学長(株)ニシムラ副社長、北海道同友会社員教育委員長)は、卒業をお祝いし、様々な困難を乗り越えて卒業したことに敬意を表している。中同協が出版したばかりの『共に育つ PART1』の大田堯東大教授のいう人間とはめあてを持って分別を重ねて生きることをのべ、そのためにゆとりが大切で、ゆとりがあれば、失敗しても「目標を失わずに自己形成ができる(中略)1人一人がより人間的に豊かになることが、結果として会社や地域社会に貢献することにつながってくるのです。」大きな目標を持ってこれからも頑張ってくださいと激励している。^(注14)

三浦隆雄北海道同友会代表理事(株)サンコー社長)が、祝意を述べ、同友会大学が創立7年半、15期で同窓生636人になったこと、この4カ月の学びの核心は、「学び続けること」の大切さと、常に自分自身や企業の在り方を「革新続けること」と、継続することを訴えた。さらに「この北海道で、多くの人々と共に生きる社会人として、地域経済を支える企業人として、そして真の幹部、真の人間として生きるためのライセンスを手に入れたとも言えるのが今日の卒業です。」と述べ、共に育つ同友会の共育活動の核心といえる「社会人」、「企業人」「真の人間」として成長することを訴えた。

もう一人の関口功四郎代表理事(シオン・樹脂工業社長)も祝辞を述べた。北海道同友会には、代表理事が2人のときと3人の時があるが、同友会大学の祝辞に複数の代表理事が参加することは珍しく、同友会大学の重視の面と関口代表理事が同友会大学前学長であったことにもよる。卒業への祝意を述べたうえで、「卒業生の皆さんは、同友会運動の活力の源として、活躍することを期待されています。今後は、学ばれたことを土台として、その上に、更に学び続けて知恵を高く積み上げて頂きたいと願っております。(中略)皆さんには、西村信学長と共に、大学と同窓会を盛り上げ大切に育てて頂きたいと願っております。」と結んでいる。^(注15)

卒業式では、引き続き講師からの祝辞がよせられた。方波見雅夫札幌学院大学教授は、最近の若者のバイタリティやハングリー精神の欠如を体罰で対応しようとするのを、猫とネズミとタウリンに関するアメリカの実験心理学の事例をあげて批判し、「知恵ある人を育てるためには、環境や背景をよく調べ、忍耐強く接してゆくことが大切なのです。」と幹部である卒業生に述べた。大宮辰男(株)帝国バンク札幌支店長は、「好・不況の間を激しく往復する今日こそ、幹部社員の力量、特に先見力が問われるものです。実力を発揮し、ご活躍されるよう期待しております。」と述べている。富森虔児北大教授は「仕事にはミスがつきものですがそのミスの

資料3

答 辞

同友会大学第15期生として大きな期待を胸に入学してから4ヶ月、私共56名は本日晴れて卒業式を迎えることとなりました。

只今ご臨席の皆様から心暖まるご祝辞をいただき誠に有難く心より御礼申し上げます。

この4ヶ月間、仕事と学ぶことを両立させることが課題でしたが、それは自分自身との闘いでもありました。週2回、1日3時間のカリキュラムは、入学前に考えていたものより内容の密度が濃く、果して本当に自分のものに出来るかどうか不安を覚えたものでした。

幸い職場の同僚と一緒に通学できたことで昼休みなどの時間に前日の講義についてあれこれ意見を交すことができ、時間の経過とともに、自分自身が少しずつ前向きに勉強に取り組める自信めいたものが出てきたような気がしております。

とは言ってもレポート作成には苦労しました。ながい間の怠惰な日常のツケが一度に廻ってきた感じで、まさに悪戦苦闘でした。

しかし参考文献を求めて書店めぐりをしたり新聞記事を丹念に読んだりする中で、自分の考えを表現することが結局は日常の積み重ねの結果であることを改めて知っただけでも意義のあったことと思っております。

それにしても素晴らしい講義を情熱的に説いていただいた^(ママ)諸先生には感謝の言葉もありません。

現代を生きて行くために、マクロ的思考とミクロ的洞察が必要不可欠であることを、この4ヶ月で学ぶことができたと思います。

今回学んだことを糧に、知的好奇心あふれる人間をめざし、更に前向きに頑張り、企業と地域社会に少しでも役立つようになりたいと思っております。

最後に卒業生一同に代わり諸先生はじめ、経営者の皆様、並びに同友会事務局の皆様、更に、職場の仲間達に改めて感謝すると共に、今後一層のご指導ご鞭撻をお願いし、答辞といたします。

1988年5月10日

北海道中小企業家同友会
同友会大学第15期生代表
株ニシムラ
西村 乙彦

出典：西谷博明事務局長編集責任『同友会大学第15期生記録集，“希望”』、北海道中小企業家同友会社員教育委員会発行、1988年7月、67頁。

中身が問題です。(中略)積極的に挑戦した時の失敗は、充実感を生み、次に挑戦する意欲の素にもなります。それが、職場全体に活力と充実感を生み、良い企業づくりに結びつくのですから。」と幹部として若手のミスへの教訓化を述べた。

同友会大学同窓会岡村俊之会長(ダイヤ冷暖工業(株)社長)は、祝意と自ら第1期卒業後の7年間での、自らへの期待の大きさに驚きを述べ、「同友会大学を卒業しても勉強を続けなければなりません。そのために、同窓生が自主的に集い、活動しているのが、同窓会です。」同友会大学の同窓生として誇りを持ち、互いに頑張りましょうと呼びかけている。

祝辞と激励で共通しているのは、1月11日から4月22日まで、真冬日を含む冬期間から春にかけて（遠くは上川郡の層雲峡からも）毎週2回（基本的に月曜と金曜）午後6～9時の講義に通うことは並大抵のことではないとの思いから、第1には、困難を克服しての卒業への賞賛と祝意である。第2は、卒業式は、終わりではなく、今後の目標にむかっての学びの始まりであることの強調である。西村信同友会大学新学長は、学位授与式や卒業式を意味する英語の commencement には、「開始」の意味があることに触れて訴えている。第3は、幹部社員への教訓として「先見性」、「体罰批判」、「失敗を挑戦に」等のほかに、本質的に、社会人、企業人、真の人間への成長発達を呼び掛けている。

努力賞を受けた西村乙彦(株)ニシムラ第2事業部長が「答辞」を行った。「この四ヶ月間、仕事と学ぶことを両立させることが課題でしたが、それは自分自身との闘いでもありました。

（中略）幸い職場の同僚と一緒に通学できたことで昼休みなどの時間に前日の講義についてあれこれ意見を交わすことができ、時間の経過とともに、自分自身が少しずつ前向きに取り組める自信めいたものがついてきたような気がしております。」さらに、レポートに悪戦苦闘したことや「マクロ的思考とミクロ的洞察が必要不可欠であること」を学び、「知的好奇心あふれる人間をめざし」企業と地域社会に貢献したいと述べている。ここには、共育活動にとって重要な指摘がなされている、^(注16)

第2章 北海道中小企業家同友会第16期同友会大学

(1) 第16期同友会大学の日程と講義概要

第16期同友会大学は、1988年7月22日(金)の開校式から、30回目の講義は、10月31日(月)、卒業式は11月18日(金)、毎週、月曜と金曜、午後6～9時、北海道同友会事務局（中央区、第一ビル）会議室で行われた。

第16期のカリキュラムにかんし、まず、単元構成、単元Ⅰ、経済と中小企業、単元Ⅱ、北海道論、単元Ⅲ、経営と法律、単元Ⅳ、経営分析、単元Ⅴ、科学技術論、単元Ⅵ、人間と教育、そして、まとめとしての総括講義、の構成は第15期と同様である。ここしばらく単元構成は安定している。

単元Ⅰ、「経済と中小企業」の担当者と講義の順序は変わっていない。しかし、講義テーマは、少しずつながら全員、第15期とは変わっている。第1講義は、森杲北大教授はそのままであるが、森教授の第14期の「どうして経済学を学ぶのか～人間の歴史と経済学の発生～」が、第15期のテーマは「経済学入門～経済学の歴史と人間社会～」になり、テーマが少し硬くなっていたが、第16期では、「経済学をどう学ぶか～人間のくらしと経済学～」と再び分かりやすい表現にもどっている。ただし、「どう学ぶか」は、経済学の学び方、方法に特化、もしくは狭めている。第2講義は、佐々木隆生北大助教授で第15期の「戦後世界経済と現在の課題」が、「現代の世界経済をどうみるか」への変更である。第3講義の富森虔児北大教授の

第15期講義「戦後日本経済と中小企業」が、「戦後日本経済の発展過程と今後の課題」に変わり、従前の中小企業への特化が日本経済全体に拡大されている。第4講義の真野脩北大教授「これからの中小企業経営のポイント」と第5講義三好宏一道教育大教授の講義テーマ「現代の情勢をどう理解するか～グループ討議～」は、両方とも第15期と変わっているが表現を親しみやすくしたと言える。

単元Ⅱ、「北海道論」は、第15期に第4講義の永井秀夫北大教授が、従前の第1講義にもどり、テーマも「北海道の近現代史から何を学ぶか」となり、第14期の「北海道の近代史」に近いものになっている。第2講義の山田定市北大教授の講義は、第15期の「北海道経済の歴史と新しい可能性」から、第16期は「北海道経済の過去・現在・未来～中小企業がひらく新しい可能性～」に変わり、北海道の中小企業の未来の可能性に焦点化している。第3講義の小笠原克藤女子大学教授「北海道の風土と文学」はテーマが変わらず順番のみ一つ上がっている。第2講義は、第14期で単元Ⅵ「人間と教育」に入っていた田中了日本民族学会会員「北方少数民族の生き方で考える～もうひとつの北海道史～」で、サブテーマの「近代史」を「北海道史」に特化した。

単元Ⅲ、経営と法律は、第1講義は、郷路征記弁護士「日本国憲法と私たちの課題」で、第15期との変化はない。第2講義は、伊藤誠一弁護士の「『改正労働基準法』と中小企業」で、法律名を明示したのみで実質的变化はない。第3、4講義は、向井清利弁護士の「債権の管理と回収(1)、(2)」で、テーマも順番も変わっていない。

単元Ⅳ、「経営分析」は、第1講義の芥川満砂子税理士「経営分析のABC」は、第15期と変わらない。第2講義の上村昭紀税理士「経営分析のすすめ方」も変化なし。第3講義は、第15期では、大宮辰男(株)帝国データバンク札幌支店長の「危ない企業の見分け方」であったがなくなり、第3、4講義に、第14期では第4講義のみであった池脇昭二税理士が、「経営分析の事例研究(1)」、「経営分析の事例研究(2)～グループ討議～」と2つの講義を担当している。

単元Ⅴ、「科学技術論」は、第1講義、田中一北大教授、第2講義、吉田文和北大助教授、第4講義、青木由直北大教授のテーマは、第15期と同様である。第3講義に、あらたに、高田誠二北大教授の「科学と技術——歴史からの発想～グループ討議(3)～」が入っている。第4講義に、西村弘行東海大学教授の第14期と同じテーマの「バイオテクノロジーと北海道の未来」が入っている。

単元Ⅵ、「人間と教育」は、第1講義に西谷博明北海道同友会事務局長「幹部に求められる現代のマナー」、第2講義は、平沢秀和(株)北海道邦楽邦舞協会事務局長(元HBCアナウンスアカデミー所長)「人間と話し言葉～コミュニケーションをより豊かにするために～」、第3講義の竹田正直北大教授「教育とは何か～社会と教育の歴史～」、第4講義の木野口功(株)共同印刷社長「部下をどう教育するか(1)～目標必達の社風をつくりあげるために～」、第5講義の後藤啓一北海学園大学教授「部下をどう教育するか(2)～現代人の社会心理と組織の活かし方～」、第6講義、方波見雅夫札幌学院大学教授「“知恵”ある人間に育つために」は、講義の順番は変

資料 4 北海道中小企業家同友会「同友会大学」講義カリキュラム（第16期）

日 程	講 義 テ ー マ	講 師
開 校 式		
'88 7月22日(金)	◎学長あいさつ, 教育委員会の紹介, ガイダンス ◎班編成の発表, 性格・職業興味検査	
単元Ⅰ 経 済 と 中 小 企 業		
7月25日(月)	◎経済学をどう学ぶか ～人間のくらしと経済学～	北海道大学 教 授 森 杲氏
7月29日(金)	◎現代の世界経済をみる視点	北海道大学 助教授 佐々木隆生氏
8月1日(月)	◎日本経済の課題と展望 ～中小企業の立場からみた日本経済論～	北海道大学 教 授 ^(ママ) 富森 虔児氏
8月5日(金)	◎これからの中小企業経営のポイント	北海道大学 教 授 眞野 脩氏
8月8日(月)	◎現代の情勢をどう理解するか ～グループ研究(1)～	札幌学院大学 教 授 三好 宏一氏
単元Ⅱ 北 海 道 論		
8月12日(金)	◎北海道の近代史から何を学ぶか	北海道大学 教 授 永井 秀夫氏
8月15日(月)	◎北海道経済の過去・現在・未来 ～中小企業がひらく新しい可能性～	北海道大学 教 授 山田 定市氏
8月19日(金)	◎北海道の風土と文学	藤女子大学 教 授 小笠原 克氏
8月22日(月)	◎北方少数民族の生き方で考える ～もうひとつの北海道史～	日本民族学会 会 員 田中 了氏
単元Ⅲ 経 営 と 法 律		
8月26日(金)	◎日本国憲法の特徴と私たちの課題	弁護士 郷路 征記氏
8月29日(月)	◎「改正労働基準法」と中小企業	弁護士 伊藤 誠一氏
9月2日(金)	◎債権の管理と回収(1)	弁護士 向井 清利氏
9月5日(月)	◎債権の管理と回収(2)	弁護士 向井 清利氏
単元Ⅳ 経 営 分 析		
9月9日(金)	◎経営分析のABC	税理士 芥川満砂子氏
9月12日(月)	◎経営分析のすすめ方	税理士 上村 昭紀氏

講義時間：18：00～21：00

日 程	講 義 テ ー マ	講 師
9月16日(金)	◎経営分析の事例研究(1)	税理士 池脇 昭二氏
9月19日(月)	◎経営分析の事例研究(2) ～グループ研究(2)～	税理士 池脇 昭二氏
単元Ⅴ 科 学 技 術 論		
9月22日(金)	◎科学と人間 ^(マツ) ～自然科学の発展と人間生活～	札幌学院大学 教 授 田中 一氏
9月26日(月)	◎技術革新と中小企業	北海道大学 助教授 吉田 文和氏
9月30日(金)	◎科学と技術 —— 歴史からの発想 ～グループ研究(3)～	北海道大学 教 授 高田 誠二氏
10月3日(月)	◎コンピュータと情報化時代	北海道大学 教 授 青木 由直氏
10月7日(金)	◎バイオテクノロジーと北海道の未来	北海道東海大学 教 授 西村 弘行氏
単元Ⅵ 人 間 と 教 育		
10月11日(火)	◎幹部に求められる現代のマナー	北海道同友会 事務局長 西谷 博明氏
10月14日(金)	◎人間と話し言葉 ～コミュニケーションをより豊かにするために～	(社)北海道邦楽邦舞協会事務局長 (元 HBC アナウンスアカデミー所長) 平沢 秀和氏
10年17日(月)	◎教育とは何か ～社会と教育の歴史～	北海道大学 教 授 竹田 正直氏
10月21日(金)	◎部下をどう教育するか(1) ～目標必達の社風をつくりあげるために～	(株)共同印刷 社 長 木野口 功氏
10月24日(月)	◎部下をどう教育するか(2) ～現代人の社会心理と組織の活かし方～	北海学園大学 教 授 後藤 啓一氏
10月28日(金)	◎“知恵”ある人間に育つために	札幌学院大学 教 授 方波見雅夫氏
総 括 講 義		
10月31日(月)	◎中小企業の未来と私たちの課題 ～同友会大学で何を学んだか(グループ討論)～	北海道同友会 専務理事 大久保尚孝氏

※卒業式は11月18日(金) PM6：00～9：00

出典：西谷博明事務局長編集責任『同友会大学第16期生記録集，“飛翔”』，北海道中小企業家同友会社員教育委員会発行，1989年1月，10～11頁。

化しているが、テーマはほとんど変わっていない。

総括講義の北海道同友会大久保尚孝専務理事の講義テーマ「中小企業の未来と私たちの課題」は第15期と同様である。各単元の講義担当者は、わずかの変更で全体的には、テーマも含め第15期とくらべ大きな変化はない。^(注17)

(2) 第16期同友会大学の受講生・卒業生の特徴

第16期の受講生は45名で、歴代最高であった第15期の62名より17名も少ないが、ある意味、第15期の反動や夏季の多忙さなどもある。それは、企業トップの取締役、部長、次長などの参加が45名中7名にとどまっていることにも表われている。千歳から1名受講している。卒業生は40名で卒業率は、88.9%で16期中第6位、努力賞が1名、皆勤賞は、21名で卒業生の52.5%で第10位、成績の平均点は、62.2で第12位である。そのほかに、北海道林友観光の遠藤さんと原口さんが、聴講生として皆勤した。また、1名は、すべてのレポートが平均点以上だったが、第16期途中から地方外向となり、出席日数不足で卒業出来なくなった受講生がおり、社員教育委員会が慎重に検討して、第17期を受講して外向のため出席できない

資料5

決意表明

「同友会大学」—— 数々の大先輩のお話の中から、この言葉を聞く度に私は、身の引き締まる思いが致しました。

「もし、私にチャンスを戴けたら……」とっておりました事が、今現実になりました。今日入校式に参列している同期生も同じだと思いますが、選ばれたという誇りと、期待に応えようとする責任感、最後まで持続する熱意をもって学びたいと思います。

人材格差が企業間格差となって現れる時代、社員の総合的な人間力の向上が問われる時代と言われております。

アクティブな謙虚さをもって学び続け人間としての基礎的な力を養うことが必要です。

企業が今日、ここに至るまでには、経営者、諸先輩の絶え間ない努力と苦勞の積み重ねがありました。このことをしっかり受け止め働く事の意義を十分に理解し、同友会大学を通じて、共に学び合いながら働く事の意義、生き甲斐、働き甲斐とは、何かを掴む努力をして参ります。

今日より同友会大学第16期生として学ばさせて戴きますが、この貴重な機会を与えてくださった経営者や同僚の好意に感謝申し上げますと共に期待に応えるため私達は、共に援け合い、自己改革を目指すことを決意しここに表明いたします。

1988年7月22日

同友会大学第16期生

代表 (株)うやまビューティサロン

宮本由紀

出典：西谷博明事務局局長編集責任『同友会大学第16期生記録集，“飛翔”』、北海道中小企業家同友会社員教育委員会発行、1989年1月、7頁。

かった講義を受講したなら第17期卒業生とすることとした。^(注18)

受講生を代表して、「決意表明」を述べたのは宮本由紀(株)うやまビューティサロン中央店店長であった。「今日入校式に参列している同期生も同じだと思いますが、選ばれたという誇りと、期待に応えようとする責任感、最後まで持続する熱意をもって学びたいと思います。人材格差が企業格差となって現れる時代と言われております。アクティブな謙虚さをもって学び続ける人間としての基礎的な力を養うことが必要です。(中略) 同友会大学を通じて、共に学び合いながら働くことの意義、生き甲斐、働き甲斐とは、何かを掴む努力をして参ります。」中小企業はより一層、目に見えて人が企業を決める時代を見据え、総合的な人間力の向上をめざして、最後まで持続的に学び続ける決意を見事に表明している。実際、宮本さんは皆勤賞を得て卒業している。^(注19)

(3) 第16期同友会大学の卒業生への祝辞と励まし

1988年11月18日(金)午後6時からの北海道同友会会議室(中央区北4条第一ビル)での卒業式で、西村信同友会大学学長(株)ニシムラ副社長、北海道同友会社員教育委員長は、次のように祝辞を述べた。「16期生の皆様のご卒業を心からお慶び申し上げます。(中略) 今回40名の卒業生を新たに同窓会に迎えることができ、これで卒業生は合計676名になりました。これは偉大な人数です。」さらに、全国唯一の全盲の竹下義樹弁護士の講演会に行ってきたが、「人間が目標を持って不退転の決意で事にあたるならば、何事も成功する」ことを自ら実証したという。また、同友会では、「教養」とは「他人の身になって考えることのできる能力の広さと深さ」と定義しているが、卒業生はこの教養を身につけたので、「その能力をさらに高めて、絶対にやり遂げるという目標をかかげ明日からの挑戦に結びつけて下さい。」^(注20)

三浦隆雄北海道同友会代表理事(株)サンコー社長)が、祝意を述べ「同友会大学は知識をつめ込むだけではなく。豊かな人間性を磨く道場であります。(中略) 皆さんは学ぶ喜び、楽しさを体得しました。目を輝かせ人間としての誇りを胸に巣立って行って下さい。」

講師陣の祝辞では、方波見雅夫札幌学院大学教授は、「今日、学歴社会から学習社会へと急速に変わって来ています。超学習社会、生涯学習社会へと変化してきているのです。(中略) 本当の能力が問われる時代が変わってきているのです。(中略) 変化に背を向けることなく、未知の課題に挑戦しつづけて下さい。」竹田正直北大教授は、貿易商として神戸で成功したロシア人の老実業家は、ロシア語、日本語、英語が達者だが、晩年に入院してから仏語学習を始めたことや、世界の大学の歴史に触れてユニバーシティの始まりは受講生の学習権を守る組合であったことから、「大学とは、自由に学ぶことを阻むものを力を合わせて取り除き、学ぶ要求を実現していくところ」なので、同友会大学で培った友情を開花させることを訴えた。同友会大学同窓会岡村俊之会長(ダイヤ冷暖工業(株)社長)は、祝意を述べ、「学びの成果を持続させるために、皆さんには同窓会活動で活躍してほしいと思います。」と訴えた。同窓会では、①毎年1回、同期会を開催する、②毎年2回の同窓会研修会への参加、③同友会主催の講演会

資料6

答 辞

本日、ここに同友会大学第16期生として、私共卒業生40名は、晴れて卒業式を迎えることと成りました。教室に用意されていた冷たいお茶を飲みながら学びはじめた真夏から、いつのまにか、あたたかいお茶を飲みながら学んでいた初冬までの4カ月間を振り返ってみますと、自分の人生の中でとても貴重な、またぜいたくな4カ月間であったように思います。

「出席率、80%以上、かつレポート、卒論の平均点が50点以上」という大変おそろしい油汗の出そうな同友会大学の卒業基準の存在を知った瞬間から、たった週2回、1日わずか3時間と安易に考えて受講しようとしていた気持ちもふっ飛んでしまいました。おかげで、探究心を持って講義に臨め、今まで未知の分野であったすばらしい文献とも出会え、レポートを書くことによって自分の意見を整理でき、さらにより深く考えるきっかけとなりました。

ただ怠け者の私ですから、提出日ギリギリに徹夜してレポート提出ということも何度かありました。

書き上げた時のホッとした気持ちや、心地よい疲労感もよい思い出になりました。学ぶという心のゆとりは、せめて人間である以上、卒業することなく、いつまでも持ち続けなくてはと決意しております。

「共に学び共に育つ」の理念にサポートされ、学ぶことの大切さ、楽しさが今まで以上に少しづつ見えてきました。ある先生は「私たちは、だまされないために学ぶのです」と言い、またある先生は「人間と人間がより深いところで結びつくために学ぶ」とおっしゃっていますが、学び方を学ぶ大学こそ同友会大学だったのだと今、改めて思うのです。

学ぶというきっかけを作って頂いたのですから、今日からが本当の意味でのスタートです。この4カ月間で学んだことを糧に、よき仲間と交流し合い、人間らしく豊かに成長していきたいと思えます。そして、ウソやゴマカシ見抜く力をしっかりと養い、道理が大切にされ、道理が通る世の中をつくってまいりたいものです。

最後にご臨席の皆様のご祝辞、熱心にねばり強く教えて下さった諸先生方、経営者の皆様、同友会事務局の皆様、それから、仕事をカバーしてくれながら学ばせて頂いた職場の仲間たちに改めて感謝申し上げますと共に、今後一層のご指導、ご鞭撻をお願いし、卒業生を代表して、答辞とさせていただきます。

1988年11月18日

北海道中小企業家同友会
同友会大学第16期生代表
株式会社 北都ファミリークラブ
武内 宏道

出典：西谷博明事務局長編集責任『同友会大学第16期生記録集，“飛翔”』、北海道中小企業家同友会社員教育委員会発行、1989年1月、59頁。

への参加を呼びかけた。(注21)

卒業生代表の「答辞」は、唯一の「努力賞」が授与された竹内宏道(株)北都ファミリークラブ営業課長が朗読した。竹内さんは、同友会大学は週2回、1回3時間だけと簡単に考えて受講したが、「出席率80%以上、レポート5本と卒業論文の平均点50点以上」の卒業条件をきいて「油汗」がでそうになったという。しかし、徹夜してレポートを「書き上げた時のホッとし

た気持ちや、心地よい疲労感もよい思い出になりました。(中略)『共に学び共に育つ』の理念にサポートされ、学ぶことの大切さ、楽しさが今まで以上に少しずつ見えてきました。(中略)学ぶというきっかけを作っていたからです、今日からが本当の意味でのスタートです。(中略)よき仲間と交流し合い豊かに成長していきたいと思います。」と、同友会大学の卒業の本質をしっかりと把握した答辞を述べた。^(注22)

おわりに

北海道同友会が、1973年の中同協第5回全国総会(愛知)で、社員「共育」を提起したが、この「共育」を、いつから用い始めたかは未解明だが、筆者は、中同協や北海道同友会結成の5年前、1964年12月25日公開の雑誌論文で「共育」を提起している。「教育は“共育”であり、教育の主人公は生徒である」と書き、“共育”は集団を教育する際のカナメともいえる概念であるとし、第1に集団の成員相互の訓育作用であり、第2に、教育者と教育を受けるものとの相互の訓育作用である、という2つの内実を有する概念として55年前から、つまり、中同協や北海道同友会の結成以前から提起している。^(注23)

筆者は、同友会大学の活動と関連付けて分析し、次のような「共育」構造を仮設した。

1つは、「直接的共育活動」と名付ける同友会大学内部での共育活動である。これには、第1に、講師と受講生との間の共育活動で、圧倒的には講師が教える活動であるが、受講生から講師が学ぶ活動もある。第2は、受講生同士の相互共育活動であり、授業中のみならず授業外での相互活動もある。第3は、学長、社員教育委員会、代表理事、事務局と講師や受講生相互の共育活動である。

2つは、「間接的共育活動」と名付ける同友会大学の外部での共育活動である。これには、第4に、受講生を送り出している企業での共育活動があり、第5は、受講生の家庭での共育活動であり、第6に、卒業後、全員が参加する同窓会や地域での共育活動である。

第1(講師と受講生の共育)については、吉田登喜雄(株)錦戸塗料店営業課長は、「経済問題から人間と教育までの三十講は、どれも充実した内容でした。ひとつひとつを血とし、肉として吸収させて頂きました。今後は、自分自身を大きく育ててゆきたいと考えております。」と述べている。水戸俊裕(株)北海道ハン六課長代理は、「経営分析の講義を受けた後、我社の財務分析をやってみた。自分の脳だとは信じられないほど、次から次に新しい企画・拡張戦略・改善策が生まれてきた。」井上準次郎(大西工業)課長は「とにかく、ついていだけで精一杯の四ヶ月間だった。でも、卒業した今、体中から自信が湧いてくるような気がする。(中略)これからは、学びの成果をどう活用していくかが私に問われている。」川崎豊(株)食品は「今まで社外研修会に何回も出たが、すべて即効的なノウハウを教える内容のものばかりだった。カリキュラムを見て北海道文学や科学技術論などが日常の仕事に役立つのかと疑問に思ったりもした。しかし卒業した今、私は心地よい感動に震えている。同友会大学は、これからの困難

な時代を生きていく私達に、何をどのように学ばなければならないか示唆をあたえてくれたような気がする。学んだ知識を知恵に変え、自分を大きく成長させたいと思う。」と、同友会大学の本質を美事に把握していた。小林直人内海自動車工業(株)工場長は、苫小牧から60キロを毎回オニギリ持参で通った。「今まで私が受けてきた教育は、いかに売上げをのばすか、など目先のことばかり学んできました。同友会大学は私が今まで描いていた教育の概念を根底からくつがえした。」伊藤隆則北海道紙工業材料(株)営業係長は「すべての講義が面白く、興奮したが、『北海道論』の中で学んだアイヌ問題にはハンマーで頭をなぐられたようなショックを受けた。道民として避けて通れない問題なのだと改めて認識した。先日、白老町のアイヌ民族博物館へ行き勉強してきた。会社の同僚や子供たちにも、アイヌ民族の存在を正しく伝えて行くことが私達の義務だと思う。」2019年5月24日に、国会で全会派一致で採択した「アイヌ施策推進法」(法律名は「アイヌの人々の誇りが尊重される社会を実現するための施策の推進に関する法律」)が施行された。この法律によって、日本の法律で初めてアイヌが先住民族と規定されたが、同友会大学では、30年以上前から、多分、田中了氏の講義を中心に「北海道論」ほかでアイヌ民族を正しく位置づけて講義をしていた。(注24)

第2(受講生相互共育)については、能代川哲郎(株)鼻和組建築課長は「他の受講生の皆さんが、一生懸命勉強されている姿に感化され、卒業まで頑張ることができました。(中略)人間の勉強が、死ぬまで続くものだということや、異業種の方々との交流・学び合いが大切だということも、しっかり学ばせていただきました。」北川和一タイヨウ(株)建設事業部次長は「大久保専務の挨拶の中で『同友会大学は人間としての価値を高める教育をするのが目的です』という言葉が印象に残った。さらに、『共に育つ』のなかで大田堯教授の人間が変わるのは、自からの意志で内面からかわることをも学び「私は同友会大学で自分自身が大きく変わった。これからも謙虚な気持ちを忘れずに『人間が人間たり得るべく』学んで参りたいと思います。」武内宏道(株)北都ファミリークラブ営業課長は「『共に学び、共に育つ』楽しさを堪能した四ヶ月間だった。日中それぞれの仕事をしている幹部達が、同じ目的を持った同じ顔になり、古くからの友人であるかのように思えてきた。ものすごく大きな財産を得た気がする。『学歴はいらぬが学問は必要だ』この言葉の意味を体得できた。輝かしい四ヶ月間だった。」(注25)

第3(学長他と受講生の共育)については、石田利巳(株)北海道給食センター課長代理は「高校以来、新聞もまともに読まなかった私だが、図書館から専門書を借り、新聞も一面から読めるようになった。」(注26)

第4(企業内で共育)については、笠間昇(有)北海道新聞笠間販売所社長「当社では、早朝三時から業務が始まります。夜九時までの授業は大変きつかったことでしょう。今回受講しなかった社員も、みんなで三浦主任を応援しました。その意味で、全社の一致団結が生んだ卒業です。」鎌田孝夫(株)白石製作所は、「オレは職人だから」と入学を拒否していたが社長の諭して入学し、「今、私は社長に深く感謝している。学ぶということはこんなにも楽しいことだったのだ。私を送り出してくれた社長、そして応援してくれた女房と子供に感謝。」(注27)。

第5（家族内での共育）については、戸高峯二サツ工業^株専務は「中学三年生の娘が、ちょうど受験する時の受講でした。夕食後、娘がノートを広げるのが早いか、私が原稿用紙を広げるのが早いかを競いあうような格好になり、（中略）その内、既に受験を終えた高校一年生の娘も勉強に熱を入れはじめ、妻も読書の時間が多くなりました。同友会大学のおかげで、一家揃って勉強する習慣が身につく、大変感謝しています。」阿部克幸^南北野繊維札幌店次長「当社で初めての受講生が、私でした。実は、わたしのあとに二人の受講予定者が控えております。（中略）卒業を契機に、自分をさらに磨き、会社をよくし、社会に貢献してゆこうと決意を固めました。」山本剛^株日本除雪機製作所は「技術屋なので経営分析に苦労した。経理のアルバイトをしている女房に教えを乞うた。女房曰く、『ワー、お父さんこんなことまで勉強しているの』亭主の株がすっかり上がった。（中略）直立二足歩行の仲間入りができた。』^(注28)

第6（同窓会や地域での共育）については、前述の岡村同窓会長の祝辞のみである。

第1（講師と受講生の共育）については、当然ながら圧倒的に講師から受講生への共育であり、ハウツウものの教育ではなく総合的な人間教育をしっかりと受け止めている。第2（受講生相互の共育）は、沢山の事例が語られた。企業から複数の受講生は、これまでと同じく大きな共育力を発揮するし、同期生の異業種交流の豊かさや楽しさが語られていた。第3（同友会役員と受講生の共育）は、大久保尚孝専務理事の名言など若干語られている。第4（企業内での共育）は、出席への周囲の支援や社長の説得がみられたが、以前行われた企業内での毎回の講義を翌日、職場で報告する活動などは語られてはいない。第5（家族内で共育）は、今回も実に、様々に表現されていた。第6は、ある意味、これからのことになるのでほとんど見られなかった。以前は、近々の同窓会研修会（講演会）参加を、卒業前に、班ごとにチケットの普及に取り組んだこともあった。また、第6を同窓会活動のみに限定せずに、地域活動などへも広げて考えることも課題である。

注

（注1）広浜泰久「中同協50年史刊行にあたって」（中同協50年史編さん委員会編『中同協50年史——歴史と理念に学び未来をひらく——』、中小企業家同友会全国協議会、2019年7月4日刊）、2頁。

（注2）国吉昌晴「あとがき」、前掲同、『中同協50年史』、304頁。

（注3）前掲同、『中同協50年史』、53～58頁。

（注4）「第15回定時総会 総会宣言（教育宣言）（1983年7月）・北海道」前掲同、『中同協50年史』、207～208頁。

（注5）竹田正直「北海道における中小企業家同友会の教育⁹⁾」、北海学園大学開発研究所『開発論集』、第103号、2019年3月刊、26～27頁。

（注6）西谷博明事務局長編集責任『同友会大学第15期生記録集，“希望”』、北海道中企業家同友会社員教育委員会発行、1988年7月、8～9頁。

（注7）前掲同。

（注8）西谷博明「熱いハートで学び続けよう」、前掲同、2頁。

- (注9)『北海道同友会ニュース』, No.199 (1988年2月12日)号, No.200 (3月16日)号, No.201 (5月12日)号, No.201 (ママ, 8月9日, 正しくはNo.202で以下号数は順送りになるべきである。)号, No.202 (ママ, 10月8日)号。「分科会終了後開かれたパーティーでは1,200名が詰めかけ, 会場は大入満員。道内四銀行をはじめ, 北海道大学の竹田教授, 札幌学院大学の方波見教授など来賓の方々は, その数とパワーに驚き圧倒されたようでした。じゃがいもやとうきび, 新鮮なうに, カニの王者タラバガニの前では, 北海道の食談義に花を咲かせていました。」No.201 (ママ, 8月9日)号, 6頁。
- (注10) 前掲, 『中同協50年史』, 70~71頁。その後, 1993年に『共に育つ PART II』が出版される。
- (注11)『北海道同友会ニュース』, No.199 (1988年2月12日)号, 2~5頁。開催日時の明示はないが, 前の頁が, 札幌での新年交礼会のニュースなので, これに先立ち4銀行常務による'88年パネルディスカッションがおこなわれたとみるべきである。
- (注12)『同友会大学第15期生記録集, “希望”』, 前掲同, 1988年7月, 6頁および, 役職については, 68~69頁参照。
- (注13) 西谷博明「熱いハートで学び続けよう」, 前掲同, 2頁。
- (注14) 西村信「人間らしい大きなめあての構築を」, 『同友会大学第15期生記録集, “希望”』, 前掲同, 1988年7月, 1頁。
- (注15) 三浦隆雄「学び続ける新しい出発点」, 関口功四郎「中小企業を支える使命感に燃えて」, 『同友会大学第15期生記録集, “希望”』, 前掲同, 1988年7月, 7頁。
- (注16) 方波見雅夫「知恵ある人を育てるために」, 大宮辰男「先見力のある幹部に」, 富森慶児「失敗を恐れず, 挑戦を」, 岡村俊之「卒業後が, 真の勉強」, 西村乙彦「答辞」, 『同友会大学第15期生記録集, “希望”』, 前掲同, 1988年7月, 11~17頁及び67頁。
- (注17) 西谷博明事務局長編集責任『同友会大学第16期生記録集, “飛翔”』, 北海道中企業家同友会社員教育委員会発行, 1989年1月, 10~11頁。田中一教授の「人然」は「自然」の印刷ミスと思われる。
- (注18) 前掲同, 2頁。
- (注19) 前掲同, 7頁。
- (注20) 西村信「人間には思ったことを実現できる能力がある」, 前掲同, 1頁。
- (注21) 三浦隆雄「学び続ける新しい出発点として」, 方波見雅夫「超学習社会を生きる」, 竹田正直「これからがUniversity」, 岡村敏之「同窓会は, 皆さんを待っている」, 前掲同, 8~9頁。なお, 9頁上段の竹田の祝辞で「19世紀」とあるのは, 「12世紀」の印刷か校正のミスである。竹田に校正の機会はない。
- (注22) 前掲同, 59頁。
- (注23) 竹田正直「集団主義教育の立場と今日的観点」, 『ソビエト教育科学』第23号, 1964年12月25日刊, 128~133頁。
- (注24) 吉田登喜雄「魅力あふれる講義に感激」, 第15期生記録集, 前掲同, 60頁。水戸俊裕「常に対峙する自分」, 第16期生記録集, 前掲, 18頁。井上準次郎「学びの成果をどう活かすか」, 第16期生記録集, 前掲同, 30頁。川崎豊「今, 知識を知恵に変える時」, 第16期生記録集, 前掲同, 41頁。小林直人「オニギリはおぼりながらの遠距離通学」, 第16期生記録集, 前掲同, 46頁。伊藤隆則「アイヌ民族を再認識」, 第16期生記録集, 前掲同, 55頁。
- (注25) 能代川哲郎「人間, 死ぬまで勉強」, 第15期生記録集, 前掲同, 43頁。北川和一「私は変わった!」, 第16期生記録集, 前掲同, 47頁。武内宏道「学歴はいらないが学問は必要だ」, 第16期生記録集, 前掲同, 52頁。

(注 26) 石田利巳「新聞が一面から読める!」, 第 16 期生記録集, 前掲同, 31 頁。

(注 27) 笠間昇「全社の一致団結で無事卒業」, 第 15 期生記録集, 前掲同, 19 頁。鎌田孝夫「オレは職人だから」第 16 期生記録集, 前掲同, 57 頁。

(注 28) 戸高峯二サツテツ工業(株)専務「一家揃って学ぶ」, 第 15 期生記録集, 前掲同, 21 頁。阿部克幸「先輩の責任を自覚」, 第 15 期生記録集, 前掲同, 29 頁。山本剛「人に成る」, 第 16 期生記録集, 前掲同, 26 頁。